

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 30 年 3 月

○ 概要

(1) 平成 30 年 3 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 7,119 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+4.4%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,288 円（伸び率+0.9%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,767 億円（伸び率+4.8%）、薬剤料が 5,341 億円（伸び率+4.2%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 1,015 億円（伸び率+23.4%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,528 円（伸び率▲0.8%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.72 種類（伸び率▲2.2%）、23.9 日（伸び率+1.9%）、85 円（伸び率▲0.5%）であった。（→P.8,9）

(3) 薬剤料の多くを占める内服薬 4,237 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）+106 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 808 億円（伸び幅▲61 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 44 アレルギー用薬の+44 億円（総額 368 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,237 億円 (+106 億円)	21 循環器官用薬 (808 億円)	11 中枢神経系用薬 (719 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (604 億円)
0 歳以上 5 歳未満	36.6 億円 (▲2.5 億円)	44 アレルギー用薬 (16.5 億円)	61 抗生物質製剤 (7.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (5.1 億円)
5 歳以上 15 歳未満	120.6 億円 (+1.5 億円)	44 アレルギー用薬 (65.1 億円)	11 中枢神経系用薬 (19.9 億円)	61 抗生物質製剤 (10.3 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,546 億円 (+68 億円)	11 中枢神経系用薬 (316 億円)	21 循環器官用薬 (244 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (225 億円)
65 歳以上 75 歳未満	997 億円 (▲6 億円)	21 循環器官用薬 (235 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (176 億円)	11 中枢神経系用薬 (119 億円)
75 歳以上	1,537 億円 (+45 億円)	21 循環器官用薬 (325 億円)	11 中枢神経系用薬 (264 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (197 億円)

(4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,288 円（伸び率+0.9%）で、最も高かったのは北海道（11,031 円（伸び率+2.0%））、最も低かったのは佐賀県（7,959 円（伸び率+1.6%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは愛媛県（伸び率+3.4%）、最も低かったのは富山県（伸び率▲1.1%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 1,015 億円（伸び率：+23.4%、伸び幅：+192 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	73.0%	+4.4%
薬剤料ベース	19.0%	+3.0%
後発品調剤率	70.8%	+3.4%
（参考）数量ベース（旧指標）	50.2%	+4.8%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+23.4%	+43.5% (5 歳以上 10 歳未満)	+15.9% (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.0%	20.4% (65 歳以上 70 歳未満)	13.7% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	905 億円 (+177 億円)	21 循環器官用薬 (280 億円)	44 アレルギー用薬 (135 億円)	23 消化器官用薬 (116 億円)
0 歳以上 5 歳未満	8.4 億円 (+2.1 億円)	44 アレルギー用薬 (3.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)	61 抗生物質製剤 (1.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	27.0 億円 (+8.6 億円)	44 アレルギー用薬 (19.5 億円)	61 抗生物質製剤 (2.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)
15 歳以上 65 歳未満	331 億円 (+74 億円)	21 循環器官用薬 (82 億円)	44 アレルギー用薬 (80 億円)	11 中枢神経系用薬 (40 億円)
65 歳以上 75 歳未満	217 億円 (+40 億円)	21 循環器官用薬 (89 億円)	23 消化器官用薬 (28 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (21 億円)
75 歳以上	321 億円 (+52 億円)	21 循環器官用薬 (198 億円)	23 消化器官用薬 (54 億円)	11 中枢神経系用薬 (37 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,325 円	1,732 円（北海道）	1,109 円（福岡県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+19.3%	+23.4%（徳島県）	+16.4%（長野県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	73.0%	83.0%（沖縄県）	65.3%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.0%	23.3%（鹿児島県）	16.2%（徳島県）
後発医薬品調剤率	70.8%	80.8%（沖縄県）	63.4%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	50.2%	60.3%（沖縄県）	45.2%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成30年3月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。